

—
教育

— 相談 61 —

令和4年度事業報告

台東区立教育支援館

紀要「教育相談61集」発刊によせて

台東区立教育支援館 館長 工藤 哲士

台東区教育委員会において令和元年10月に策定した「台東区学校教育ビジョン」では、4つの施策目標の一つに“多様なニーズを具現化する教育を展開する”ことを掲げ、施策の方向として「子供が豊かに学ぶ教育環境づくりの推進」、「様々な家庭の状況や子供の諸課題の支援」等とし、学校園や家庭の多様な実態に応じた取組を展開しています。

台東区立教育支援館では、教育相談を担当する臨床心理士等が相談者の悩みに寄り添い、子供たち一人一人に応じた適切かつきめ細かな支援・援助を提供することを念頭に置くとともに、全ての子供たちが学校園において円滑に学習・生活することや社会的自立につながることを目指して、様々な教育相談事業を展開しています。

精神科医、言語聴覚士等の専門的な人材を活用した「こころの相談室」、「未就学児のきこえとことばの相談」では、各学校園や家庭に対して、子供一人一人の実態に応じたより適切な支援方法や専門的な助言を得られる機会を提供しています。

また、様々な理由により長期欠席傾向にある児童・生徒に対しては、「あしたば学級」の生活指導相談員や臨床心理士が中心となって対応しています。生活指導相談員が学校訪問を通じて把握した対象児童・生徒の状況を基に、一人一人に適した支援方法を学校と連携して検討することで、学校復帰や社会的自立に向けた取組をより一層充実させることにつながっています。

さらに、「スクールソーシャルワーカー配置事業」においては、各ケースの関係者をコーディネートし、子供の心理的側面、家庭的側面の両面で解決を図っています。本区では、スクールソーシャルワーカー4名体制で各学校園を支援しています。各校の校務分掌に位置付けられた「スクールソーシャルワーカー担当教員」との連携を強化するとともに、多様な支援方法を用いて、課題の解決に努めます。

この度、令和4年度の教育相談事業をまとめた「教育相談61集」を作成いたしました。教育支援館における来所相談の令和4年度新規申込み件数は234件でした。なお、令和3年度からの継続相談件数を合わせた来所相談件数は387件となり、依然として高い水準で推移していることがわかります。

また、主訴別の順位においては、「不登校（園）」が最多の54件、続いて「落ち着きがない」が40件、「言語障害・遅れ」が37件、「反抗・乱暴・わがまま」が27件と続きます。その他にも電話相談件数の内訳や「こころの相談室」の相談状況、生活指導相談学級「あしたば学級」の活動状況等についても詳細に掲載しております。

本紀要は、教育支援館の教育相談事業を広く関係の皆様にご理解いただくことを目的としております。本館で実施している様々な相談事業を今後も学校園や家庭においてご活用いただくことで、子供たちが安心して学校園生活を送ることができるようになりますことを、心から願っております。

目 次

令和4年度 事業報告

教育相談

来所・電話相談	・・・・・・・・・・	2～10
連携訪問	・・・・・・・・・・	11～12
学校教育相談講座	・・・・・・・・・・	13～15
教育相談内部研修会	・・・・・・・・・・	16
こころの相談室	・・・・・・・・・・	17～20
未就学児のきこえとことばの相談	・・・・・・・・・・	21～23

生活指導相談学級（あしたば学級）

年間活動報告	・・・・・・・・・・	24～29
ふれあいパートナー派遣事業	・・・・・・・・・・	30

教育相談

来所・電話相談

令和4年度の来所・電話相談の相談状況は、次のとおりである。

【来所相談について】

1. 全体の傾向

令和4年度の新規申込み件数は234件で、前年度より25件多い申込みであった。＜表1＞＜図1＞申込み件数が多かった順位を年齢別に見ると、小学生1～3年が80件（34%）、小学生4～6年が57件（24%）、中学生49件（21%）、4～6歳が46件（20%）、で、小学生が全体の58%をしめている。＜図2＞

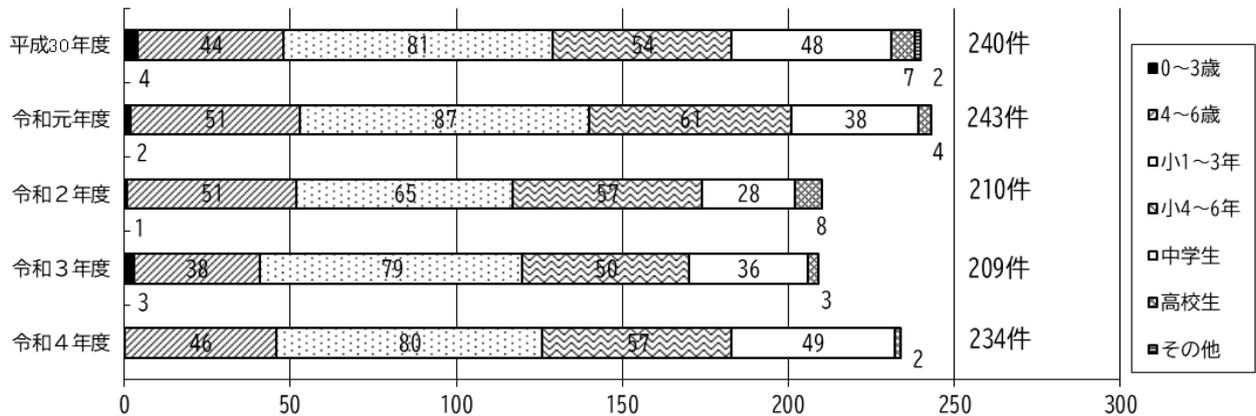
令和3年度からの継続件数は153件で、令和4年度の新規申込み件数と合わせると、令和4年度の来所相談の総数は387件であった。来所相談件数が多かった順位を年齢別に見ると、小学生1～3年107件（28%）、小学生4～6年が102件（26%）、中学生が79件（20%）、4～6歳が76件（20%）、高校生が21件（5%）となっており、小学生が全体の54%を占めている。＜図3＞

＜表1＞ 令和4年度 来所相談申込件数（月別・年齢別・主訴別・申込方法別）

令和4年度 (月別)	相談対象								主訴						申込方法				
	幼児		小学生		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計	1 性 格 ・ 行 動	2 知 能 ・ 学 業	3 精 神 ・ 身 体	4 進 路 ・ 適 性	5 し つ け ・ 育 て 方	6 そ の 他	計	A 直 接 申 込	B 学 校 ・ 園 経 由	C 他 機 関 経 由	計
	0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年															
繰越*		30	27	45	30	19	2	153	91	18	40	1	3		153	70	59	24	153
4月		1	5	5	1			12	7	4	1				12	2	7	3	12
5月			3	4	8			15	13	1	1				15	3	10	2	15
6月		6	11	7	4			28	19	4	5				28	9	11	8	28
7月		7	4	4	3			18	8	3	7				18	6	7	5	18
8月			6	4	3			13	7	4	1	1			13	8	3	2	13
9月		8	7	2	5	1		23	8	6	8		1		23	9	9	5	23
10月		2	9	4	4			19	15	2	2				19	6	12	1	19
11月		5	9	9	5			28	15	6	5		2		28	11	15	2	28
12月		5	7	8	5			25	12	9	4				25	9	15	1	25
1月		3	4	1	4	1		13	8	2	3				13	4	5	4	13
2月		5	7	6	3			21	14	4	3				21	11	10	0	21
3月		4	8	3	4			19	13	3	3				19	7	9	3	19
R4合計	0	46	80	57	49	2	0	234	139	48	43	1	3	0	234	85	113	36	234
総計	0	76	107	102	79	21	2	387	230	66	83	2	6	0	387	155	172	60	387

*繰越：令和3年度からの継続のケース

<図1> 過去5年間の来所相談新規申込件数の推移（年齢別）



2. 主訴について

令和4年度の来所相談申込み件数の主訴別順位は、第1位が「不登校（園）」54件、第2位が「落ち着きがない」40件、第3位が「言語障害・遅れ」37件、第4位が「反抗・乱暴・わがまま」27件となっている。<表2>

主訴別・年齢別で申込み件数の順位を見ると、第1位の「不登校（園）」の内訳は、4～6歳が2件、小学生1～3年が14件、小学生4～6年が15件、中学生が21件、高校生が2件であった。第2位の「落ち着きがない」の内訳は、4～6歳が1件、小学生1～3年が20件、小学生4～6年が12件、中学生7件であった。第3位の「言語障害・遅れ」の内訳は、4～6歳が37件であった。第4位の「反抗・乱暴・わがまま」の内訳は、4～6歳が3件、小学生1～3年が12件、小学生4～6年が8件、中学生4件であった。<表3>

なお、「言語障害・遅れ」を主訴とした就学前の幼児については、当教育相談内において言語聴覚士が月12回の枠で相談を行っている。言語聴覚士が扱う主な内容は、「発音不明瞭」、「吃音」、「言語発達遅滞」などである。小学生の対応については、黒門小学校内『きこえとことばの教室』を紹介している。

令和3年度からの継続の相談と、令和4年度の新規申込みの相談を合わせた令和4年度の来所相談総数の主訴別件数の順位は次のとおりである。第1位が「不登校（園）」94件、第2位が「言語障害・遅れ」69件、第3位が「落ち着きがない」59件であった。<表4>

<表2> 来所相談 年度別・主訴別相談件数上位4位

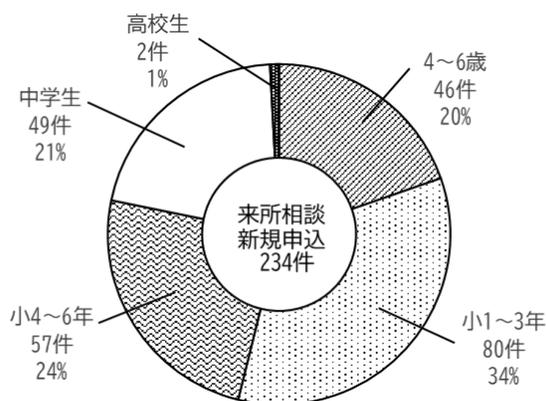
単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	言語障害・遅れ 44	落ち着きがない 49	学業不振 言語障害・遅れ 45	不登校（園） 学業不振 40	不登校（園） 54
2	学業不振 43	言語障害・遅れ 43	不登校（園） 34	言語障害・遅れ 33	落ち着きがない 40
3	不登校（園） 40	学業不振 36	落ち着きがない 21	落ち着きがない 28	言語障害・遅れ 37
4	落ち着きがない 31	不登校（園） 29	反抗・乱暴 ・わがまま 16	反抗・乱暴 ・わがまま 15	反抗・乱暴 ・わがまま 27

<表3> 令和4年度 来所相談主訴別件数（令和4年度新規申込分）

主訴・問題		年齢・学年		中学生	高校生	その他	計			
		幼児 0～3歳	小学生 小1～3年 小4～6年							
1 性格・行動	1	内気・消極・無気力		6	1	3	10			
	2	反抗・乱暴・わがまま		3	12	8	27			
	3	不登校（園）		2	14	15	54			
	4	落ち着きがない		1	20	12	40			
	5	友人関係			1	2	4			
	6	盗み					0			
	7	緘黙				1	1			
	8	非行				1	1			
	9	性について					0			
	10	その他		1		1	2			
2 知能・学業	1	精神発達遅滞		2		1	3			
	2	学業不振		10	10	6	26			
	3	学習障害（LD）		11	2	2	15			
	4	学習方法・態度		2	2		4			
	5	その他					0			
3 精神・身体	1	神経症的		1	1		2			
	2	自閉傾向		2	1		3			
	3	夜尿・遺尿・遺糞			1		1			
	4	チック症・爪かみ					0			
	5	自慰					0			
	6	言語障害・遅れ		37			37			
	7	身体症状					0			
	8	その他					0			
4 進路	1	学校選択			1		1			
	2	転校					0			
	3	進路相談					0			
5	しつけ・育て方		1	1	1	3				
6 その他	1	学校・教師との問題					0			
	2	相談者自身の問題					0			
	3	その他					0			
計			46	80	57	49	2	0	234	234

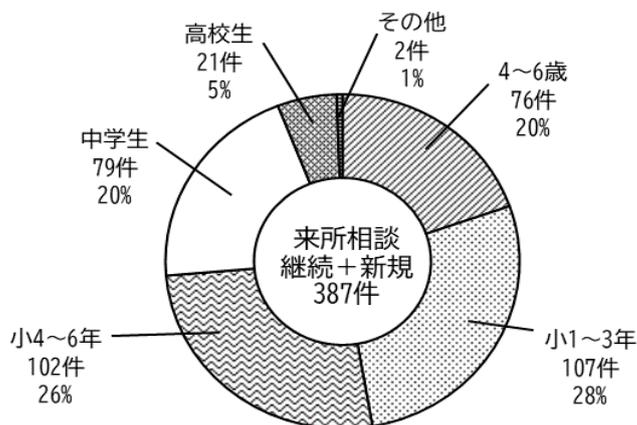
<図2> 令和4年度 来所相談新規申込件数（年齢別）



<表4> 令和4年度 来所相談主訴別件数（令和3年度からの継続分+令和4年度新規受付分）

主訴・問題		年 齢・学 年		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計			
		幼 児	小 学 生							
		0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年					
1 性 格 ・ 行 動	1	内気・消極・無気力		8	4	4	1	1	18	
	2	反抗・乱暴・わがまま		3	13	18	7	1	42	
	3	不登校（園）		2	22	22	34	13	1	94
	4	落ち着きがない		1	26	19	11	2	59	
	5	友人関係			2	3	3		8	
	6	盗み							0	
	7	緘黙				1	1	1	3	
	8	非行					1		1	
	9	性について							0	
	10	その他		1	1	3			5	
2 知 能 ・ 学 業	1	精神発達遅滞		2	1	1			4	
	2	学業不振			14	16	8	1	39	
	3	学習障害（LD）			11	3	2		16	
	4	学習方法・態度			2	3	2		7	
	5	その他							0	
3 精 神 ・ 身 体	1	神経症的		3	2	2			7	
	2	自閉傾向		2	1	1	1		5	
	3	夜尿・遺尿・遺糞				2			2	
	4	チック症・爪かみ							0	
	5	自慰							0	
	6	言語障害・遅れ		67		2			69	
	7	身体症状							0	
	8	その他							0	
4 進 路	1	学校選択			1	1			2	
	2	転校							0	
	3	進路相談							0	
5	しつけ・育て方			2	1	1	2		6	
6 そ の 他	1	学校・教師との問題							0	
	2	相談者自身の問題							0	
	3	その他							0	
計			0	76	107	102	79	21	2	387

<図3> 来所相談年齢別件数（継続+新規）



3. 申込方法について

来所相談は保護者からの申込みを原則とし、保護者が申し込むまでの経緯を次のように分類している。

A：保護者からの自発的な判断による直接申込み

B：学校（園）からの紹介または勧めによる申込み

C：他機関からの紹介による申込み

令和4年度の新規申込み方法においては、Aが85件、Bが113件、Cが36件であった。＜表1＞
今年度は、Bの学校（園）からの紹介または勧めによる申込みが最も多い状況となっている。

4. 来所相談（継続面接）の状況

来所相談では、主訴を解決するために保護者と子供に対する面接を行っている。さらに各事例について必要と思われる関係機関とは、主に電話での連携を行っている。

令和4年度の来所相談延べ相談回数は2211回であった。＜表5＞＜図4＞

主訴別内訳を見ると、「性格・行動」の1573回が最も多く、「精神・身体」が444回、「知能・学業」が183回であった。「性格・行動」「精神・身体」の延べ相談回数は前年度よりやや増加している。年齢別内訳を見ると、4～6歳が310回、小学生1～3年が653回、小学生4～6年が695回、中学生が433回、高校生が108回となっていて、今年度は小学生4～6年の延べ相談回数が最も多かった。4～6歳、小学生4～6年、高校生の延べ相談回数が昨年度を上回っている。＜表5＞＜表6＞

令和4年度の親と子供、学校（園）別に延べ相談回数を見ると、子供の延べ相談回数が968回、親の延べ相談回数が1229回（来所1220回、電話9回）、学校の延べ相談回数が14回（訪問1回、電話13回）であった。＜表6＞

年齢別に延べ相談回数を多い順に見ると、第1位が小学生4～6年の695回（親362回、子供325回、学校8回）、第2位が小学生1～3年の653回（親353回、子供294回、学校6回）、第3位が中学生の433回（親276回、子供157回）、第4位が4～6歳の310回（親160回、子供150回）、第5位が高校生の108回（親66回、子供42回）であった。＜図5＞

＜表5＞ 令和4年度 来所相談延べ相談件数

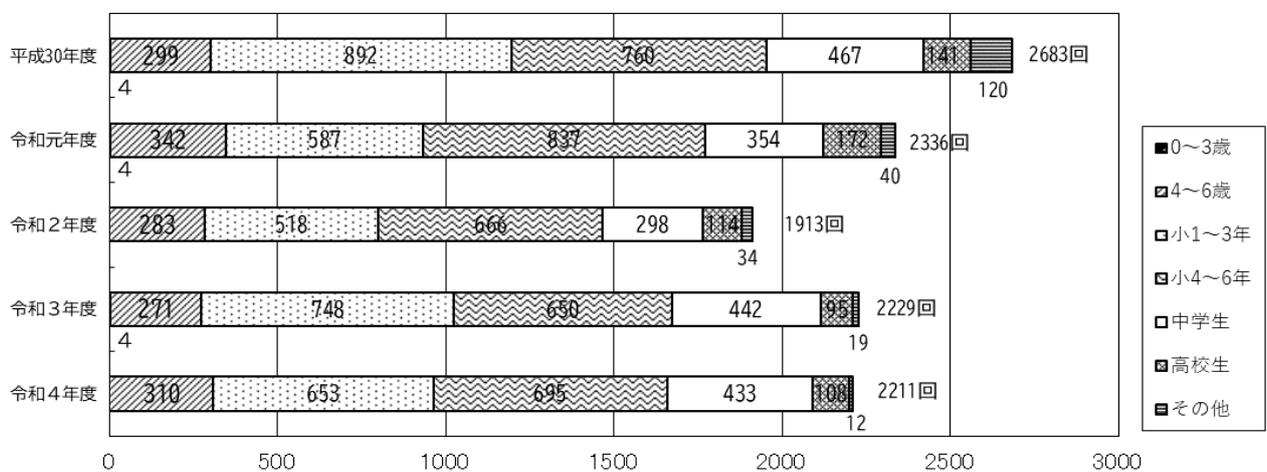
*来所相談のケースについて、来所、電話、学校訪問などの方法で相談に応じた回数の合計

	親		子 供		学 校		総 計
	来 所	電 話	来 所	電 話	訪 問	電 話	
1 性 格 ・ 行 動	873	6	682		1	11	1573
2 知 能 ・ 学 業	109	1	71			2	183
3 精 神 ・ 身 体	227	2	215				444
4 進 路 ・ 適 性	2						2
5 し っ け ・ 育 て 方	9						9
6 そ の 他							0
総 計	1220	9	968	0	1	13	2211

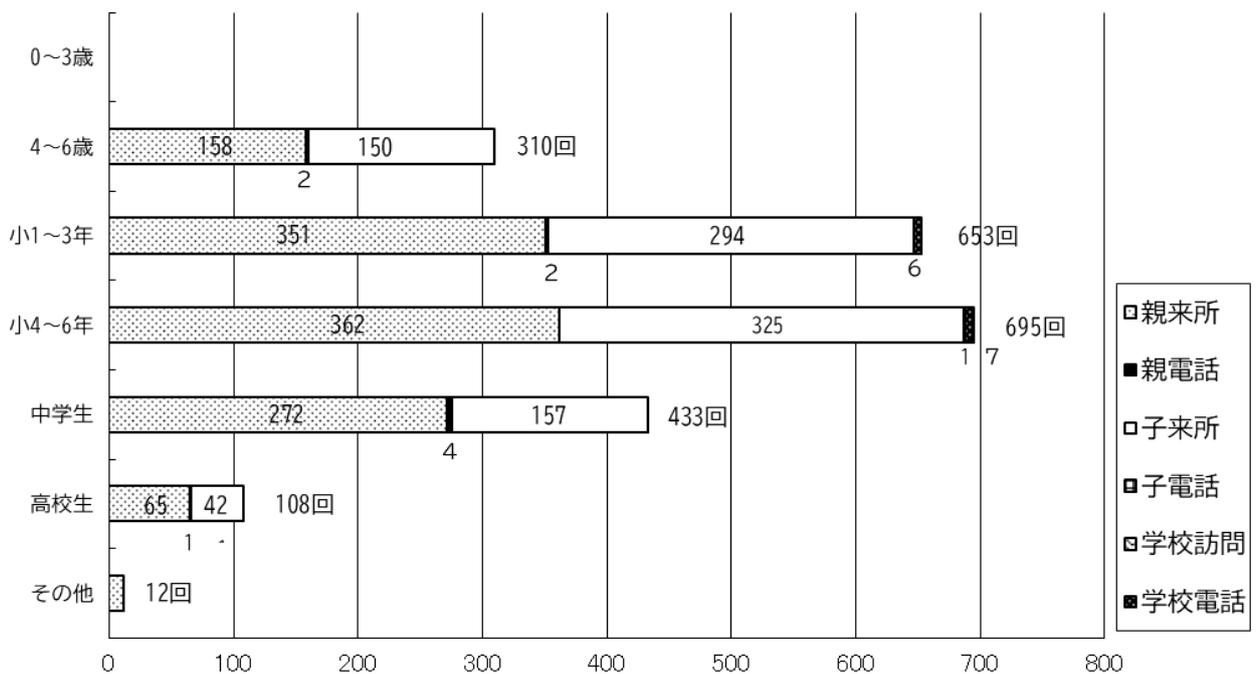
<表6> 令和4年度 来所相談延べ相談回数（年齢別内訳）

	親		子 供		学 校		総 計
	来 所	電 話	来 所	電 話	訪 問	電 話	
0 ～ 3 歳							0
4 ～ 6 歳	158	2	150				310
小学生1～3年	351	2	294			6	653
小学生4～6年	362	0	325		1	7	695
中 学 生	272	4	157				433
高 校 生	65	1	42				108
そ の 他	12						12
総 計	1220	9	968	0	1	13	2211

<図4> 過去5年間の来所相談延べ相談（年齢別）



<図5> 令和4年度 来所相談延べ相談回数（年齢別）



【電話相談について】

1. 令和4年度の電話相談件数、内訳等

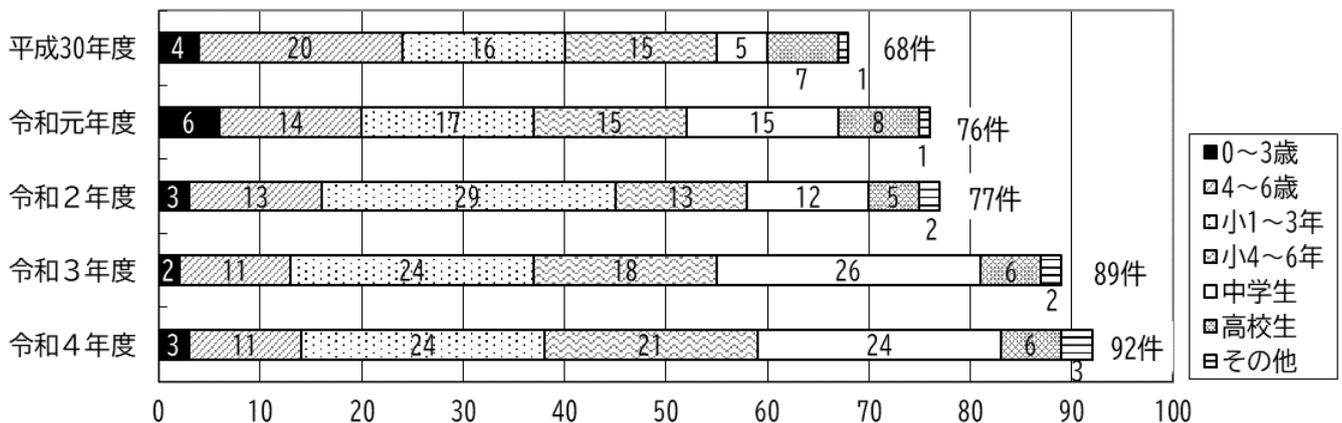
電話相談は1回限りの相談の場合が多いが、中には数回継続して相談する場合もある。また、相談員が来所の必要を感じた場合には来所相談を勧めている。

令和4年度の電話相談件数は92件であった。対応としては、助言が58件、紹介が17件、来所相談へ移行が17件である。<表1><表2> 年齢別に相談数の多い順にみると、小学生1～3年が24件(26%)、中学生が24件(26%)、小学生4～6年が21件(23%)、4～6歳が11件(12%)、高校生が6件(7%)、0～3歳が3件(3%)、その他3件(3%)となっている。<図1><図2>

<表1> 令和4年度 電話相談件数（月別・年齢別・主訴別・処理方法別）

令和4年度 (月別)	相 談 対 象								主 訴						処 理 方 法				
	幼 児		小学生		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計	1 性 格 ・ 行 動	2 知 能 ・ 学 業	3 精 神 ・ 身 体	4 進 路 ・ 適 性	5 し っ け ・ 育 て 方	6 そ の 他	計	助 言	紹 介	来 所 移 行	計
	0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年															
4月			4	3	1		1	9	5	1			1	2	9	5	3	1	9
5月	2	1	2	1	3			9	5	1	2		1		9	5	2	2	9
6月		3	1	1	3			8	4	1	1	2			8	8			8
7月			3		1	1		5	1		1		1	2	5	2	2	1	5
8月	1							1	1						1	1			1
9月		3	3	3	3	2		14	7			2		5	14	8	3	3	14
10月					2	1	1	4	4						4	2	1	1	4
11月		1	3	4	2		1	11	6		1		1	3	11	5	2	4	11
12月			4	2	4	2		12	3	5				4	12	6	4	2	12
1月		1	1	4	2			8	5	2	1				8	7		1	8
2月			1	3	1			5	2	1			1	1	5	3		2	5
3月		2	2		2			6	3					3	6	6			6
総計	3	11	24	21	24	6	3	92	46	11	6	4	5	20	92	58	17	17	92

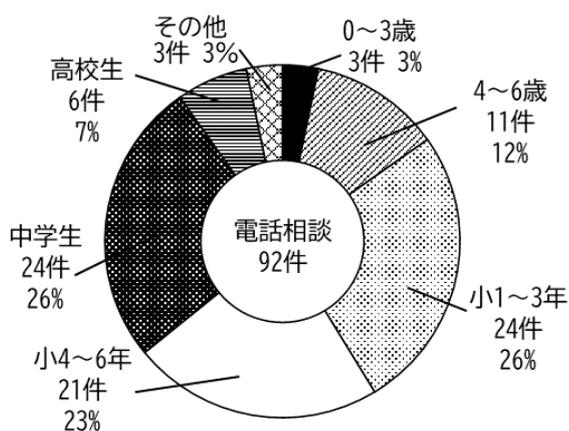
<図1> 過去5年間の電話相談件数の推移（年齢別）



<表2> 令和4年度 電話相談主訴別件数

主訴・問題		年齢・学年		小学生		中学生	高校生	その他	計	
		0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年					
1 性 格 ・ 行 動	1	内気・消極・無気力					4		4	
	2	反抗・乱暴・わがまま	1	2	2		2		7	
	3	不登校（園）			4	6	6	1	18	
	4	落ち着きがない		2	5			1	8	
	5	友人関係		1	2	2		1	6	
	6	盗み				1			1	
	7	緘黙							0	
	8	非行							0	
	9	性について							0	
	10	その他					1	1	2	
2 知 能 ・ 学 業	1	精神発達遅滞							0	
	2	学業不振			2				2	
	3	学習障害（LD）			1	1	2		4	
	4	学習方法・態度				2	3		5	
	5	その他							0	
3 精 神 ・ 身 体	1	神経症的							0	
	2	自閉傾向				1			1	
	3	夜尿・遺尿・遺糞							0	
	4	チック症・爪かみ							0	
	5	自慰							0	
	6	言語障害・遅れ		1	1				2	
	7	身体症状	1	1		1			3	
	8	その他							0	
4 進 路	1	学校選択		1			1		2	
	2	転校				1			1	
	3	進路相談						1	1	
5	しつけ・育て方	1		1	1	2		5		
6 そ の 他	1	学校・教師との問題		2	5	5	1	1	14	
	2	相談者自身の問題			1				1	
	3	その他		1			2	2	5	
計			3	11	24	21	24	6	3	92

<図2> 令和4年度 電話相談件数（年齢別）



2. 電話相談での主訴について

令和4年度の電話相談における主訴別件数は、多いものから「不登校（園）」18件、「学校・教師との問題」14件、「落ち着きがない」8件、「反抗・乱暴・わがまま」7件であった。

電話相談での主訴は多岐にわたっており、令和2年度からの3年間は「不登校（園）」の相談が最も多かった。多少順位は変動するが、「しつけ・育て方」、「落ち着きがない」、「学校・教師との問題」、「反抗・乱暴・わがまま」などが、この5年間の上位に入っている。〈表2〉〈表3〉

〈表3〉 電話相談 年度別 主訴別相談件数上位4件

単位：件

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
1	しつけ・育て方	11	落ち着きがない	10	不登校（園）	11	不登校（園）	22	不登校（園）	18
2	不登校（園）	9	不登校（園）	9	しつけ・育て方	9	反抗・乱暴・わがまま 学校・教師との問題	各 9	学校・教師との 問題	14
3	反抗・乱暴 ・わがまま	6	しつけ・育て方 学校・教師との問題	各 8	言語障害・遅れ	8	落ち着きがない しつけ・育て方	各 8	落ち着きがない	8
4	落ち着きがない 友人関係	各 5	友人関係	7	落ち着きがない 反抗・乱暴・わがまま	各 7	友人関係	7	反抗・乱暴 ・わがまま	7

連 携 訪 問

令和4年度も各学校・園への「教育相談連携訪問」を実施した。小学校と中学校に関しては原則として全校を訪問し、幼稚園、保育園、こども園に関しては要請に応じて訪問している。小学校、中学校においてはスクールカウンセラーとの情報交換を主とし、幼稚園、保育園、こども園においては幼児の生活の様子を観察し助言を行っている。学校や園で気になる子供、また当教育相談に来所している子供について、教育相談員がスクールカウンセラーや先生方と直接話し合える機会として、今後もさらに充実させていきたいと考える。

1. 年度別訪問校・園数について

令和4年度の訪問学校・園数は29校園、延べ訪問回数も29回である。

<表1> 年度別訪問校・園数

回 数 校 種		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		訪 問 校園数	延 べ 回 数								
幼 稚 園	区 立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	私 立	1	1	2	2	1	1	0	0	0	0
保 育 園	区 立	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1
	私 立	5	5	5	5	7	7	2	2	1	1
こ ども 園		0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
小 学 校		18	18	19	19	19	19	19	19	19	19
中 学 校		6	6	7	7	7	7	7	7	7	7
合 計		31	31	34	34	35	35	30	30	29	29

2. 訪問の内容

訪問内容は<表2>のとおりである。小学校、中学校の訪問では、スクールカウンセラーとの情報交換を中心に実施している。校長、副校長、養護教諭等が話し合いに参加した学校もある。

幼稚園、保育園、こども園の訪問では、要請に応じて気になる園児を観察し、園長や担任等とその後の対応などについて話し合った。

連携訪問で話し合われた子供たちの主な状況としては、「不登校」、「集団にうまく適応できない」、「発達障害傾向（多動である、言葉の遅れがある、感情のコントロールが苦手であるなど）が感じられる」、「友達と関わらず孤立している」、「親子関係が不安定なため学校で情緒的に不安定である」などであった。

<表2> 学校・園 訪問一覧

(SC:スクールカウンセラー)

月 日	学 校 ・ 園 名	訪問者数	校 ・ 園 内 参 加 者	主 な 内 容
5月12日	玉 姫 保 育 園	1	園長、担任	園児の観察と助言
19日	大 正 小 学 校	1	校長、副校長	園児の観察と助言
6月1日	忍 岡 中 学 校	1	SC	情 報 交 換
1日	金 曾 木 小 学 校	2	養護教諭、SC	情 報 交 換
3日	東 浅 草 小 学 校	2	養護教諭、SC	情 報 交 換
3日	ぼけっとランド浅草橋保育園	1	園長	園児の観察と助言
7日	石 浜 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
7日	黒 門 小 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
9日	忍 岡 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
10日	柏 葉 中 学 校	2	SC	情 報 交 換
13日	田 原 小 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
16日	金 竜 小 学 校	2	SC	情 報 交 換
17日	千 束 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
27日	松 葉 小 学 校	1	校長、SC	情 報 交 換
28日	蔵 前 小 学 校	2	SC	情 報 交 換
7月7日	浅 草 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
15日	富 士 小 学 校	2	SC	情 報 交 換
9月13日	浅 草 中 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
14日	台 東 育 英 小 学 校	2	副校長、SC	情 報 交 換
15日	上 野 中 学 校	1	SC	情 報 交 換
16日	御 徒 町 台 東 中 学 校	1	SC	情 報 交 換
21日	桜 橋 中 学 校	1	SC	情 報 交 換
22日	根 岸 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
30日	平 成 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
10月7日	上 野 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
11日	谷 中 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
28日	駒 形 中 学 校	2	SC	情 報 交 換
11月18日	たいとうこども園	1	主任、担任2名	園児の観察と助言
1月26日	東 泉 小 学 校	1	SC	情 報 交 換

学 校 教 育 相 談 講 座

1. 令和4年度に開催した学校教育相談講座の日程、タイトル、講師名

回	月 日	タ イ ト ル	講 師
1	7月25日 (月)	感情コントロールが苦手な 子供たちの学校適応に向けて ～ アンガーマネジメントを通して ～	公認心理師・臨床心理士 鈴 村 眞 理 先生
2	7月26日 (火)	学級づくりに活かすカウンセリング ～ よりよい人間関係を築くために ～	明治大学文学部 教授 諸 富 祥 彦 先生
3	7月27日 (水)	発達に偏りがある子供の理解 ～ 子供と子供がつながり合うクラスづくり ～	特定非営利活動法人 リソースセンターone 代表理事 上 原 芳 枝 先生
4	7月28日 (木)	学校で活かすブリーフセラピー ～ いじめ等のトラブルを防止する 解決志向のクラスづくり ～	目白大学人間学部児童教育学科 非常勤講師 渡 辺 友 香 先生
5	8月 2日 (火)	発達に偏りがある子の支援と手立て ～ 実践編 ～	明星大学教育学部教育学科 特別支援教員コース 教授 森 下 由 規 子 先生
6	8月 3日 (水)	複雑な環境下で育つ子供と家族への 支援の在り方について	東京都立大学学生サポートセンター 教授 村 松 健 司 先生

2. 各講座の内容

(1) 感情コントロールが苦手な子供たちの学級適応に向けて

～アンガーマネジメントを通して～

公認心理師・臨床心理士 鈴木 眞理 先生

家庭や個別の環境では問題がみられなくても、集団の場で些細なことで衝動的になる子供は、毎年増えている傾向がみられる。このような感情コントロールの難しい子供の心理状態や背景を考えるとともに、発達特性やアンガーマネジメントの視点も踏まえ、望ましい対応を考える。問題が深刻化する前にできることについて、具体的な方法についてワークを通して体験的に学ぶ。

(2) 学級づくりに活かすカウンセリング ～よりよい人間関係を築くために～

明治大学文学部 教授 諸富 祥彦 先生

学校や園での不適応（ひきこもり、学級崩壊、いじめなど）のきっかけとなる要因は様々で、状態も多様化している。そのような子供たちの心を理解しながら、学校や園での具体的な見守り方や対応方法を考え、居心地のよい学級を作るための言葉かけや、大人側が心がけることを学ぶ。

(3) 発達に偏りがある子供の理解 ～子供と子供がつながり合うクラスづくり～

特定非営利活動法人リソースセンターone 代表理事 上原 芳枝 先生

発達障害の概念や知識は広がりつつあるが、現場では子供の状態理解が難しい面もある。発達に偏りがある子供を理解するための視点、効果的な支援のための考え方、保護者とのより良い関係の築き方について、具体的に学ぶ。

(4) 学校で活かすブリーフセラピー

～いじめ等のトラブルを防止する解決志向のクラスづくり～

目白大学人間学部児童教育学科 非常勤講師 渡辺 友香 先生

解決志向ブリーフセラピーの基本的な考え方や、日々の指導や支援に役立つ具体的な技法を学び、課題を抱える子供たちのよい変化や改善を目指す。解決志向を用いた学級支援プログラムについて、ワークシートを用いて体験的に学ぶ。

(5) 発達に偏りがある子の支援の手立て ～実践編～

明星大学教育学部教育学科 特別支援教員コース 教授 森下 由規子 先生

発達障害の特性は一様ではなく、個々のニーズに合った対応が必要である。発達に偏りがある子への有効な支援を継続するための考え方、子供を見立てる視点について学ぶ。

(6) 複雑な環境下で育つ子供と家族への支援の在り方について

東京都立大学学生サポートセンター 教授 村松 健司 先生

不登校やいじめの問題、対人トラブルの背景として、家庭のサポートをうまく得られない子供たちが多くみられる。このような子供たちや問題を抱える家族をどう理解・支援していくかを考え、家族をサポートするための視点や対応方法などについて学ぶ。

3. 令和4年度の参加の状況

令和4年度の受講者数は152名（幼稚園14名、保育園16名、こども園1名、私立幼稚園・保育園14名、小学校56名、中学校10名、関係機関13名、スクールカウンセラー28名）で、各講座の延べ受講人数は200名であった。各講座の受講者の内訳は以下の表のとおりである。

校種別（受講人数）	回	1	2	3	4	5	6	延べ受講人数
幼稚園（14）		8	1	6	1	0	0	16
保育園（16）		1	0	7	2	3	4	17
こども園（1）		0	0	0	0	1	0	1
私立幼稚園・保育園（14）		5	3	4	3	4	3	22
小学校（56）		29	16	19	6	11	8	89
中学校（10）		5	3	2	0	2	1	13
関係機関（13）		5	1	0	3	2	2	13
スクールカウンセラー（28）		6	11	6	6	0	0	29
全体（152）		59	35	44	21	23	18	200

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度、令和3年度と中止が続き、令和元年度以来の開催となった。参加人数や講義形式について制限をしながらの開催であったため、受講者数は令和元年度より減少したものの、複数回参加する受講者が多く、教育相談に対する関心の高さがうかがえた。

教育相談内部研修会

令和4年度の内部研修会は、主として教育相談員7名を対象として行った。

この研修会は、教育相談員がより高度の理論や技術を習得して、来所相談者への相談にあたることを目的としており、講義を含む専門研修会とスーパービジョン（日常行っている心理療法の技術向上を図るための専門家の指導）で構成した。

【 専門研修会 】

月 日	時 間	内 容	講 師
7月26日(火)	9:30～ 12:00	WISC-IVを行った事例 (行動観察とWISC-IVからの見立て)	路地裏発達支援オフィス 代表 糸井 岳史 先生
2月28日(火)	9:30～ 12:00	WISC-IVを行った事例 (行動観察とWISC-IVからの見立て)	路地裏発達支援オフィス 代表 糸井 岳史 先生

【 スーパービジョン 】 ★は講師の都合により中止

月 日	時 間	内 容	講 師
6月8日(水)	9:30～ 12:00	虐待環境で育った母親と かんしゃくを起こす小学生の事例	東京都立大学 特任教授 永井 徹 先生
7月6日(水)	13:00～ 15:30	アセスメントについての講義	SPC千駄ヶ谷心理センター 中村 留貴子 先生
8月24日(水)	14:30～ 17:00	養育困難家庭における 不登校の小学生の事例	ファミリーメンタルクリニック まつたに 院長 松谷 克彦 先生
11月21日(月)	9:30～ 12:00	不登校の子供との 関わり方に戸惑う保護者の事例	東京都立大学 教授 村松 健司 先生
12月26日(月)	9:30～ 12:00	箱庭の体験と講義	埼玉工業大学 教授 三浦 和夫 先生
★3月29日(水)	9:30～ 12:00	ケーススーパービジョン	埼玉工業大学 教授 三浦 和夫 先生

こころの相談室

「こころの相談室」は、子供のこころの問題に関する悩み、発達や行動に対する心配事などに、精神科医が医療的な助言を行う事業である。（平成13年5月開始）

令和4年度は、精神科医2名が毎月4回、各3時間、教育支援館に来館し、分担して来所相談・電話相談・医師の訪問等を実施した。区内に在住または在学（園）している0歳から18歳の子供のことで、保護者、教師、本人などが相談することができる。来所での相談とともに電話での相談にも応じている。継続的な相談、治療や診断が必要な場合には、医療機関を紹介することもある。

また、申込みのあった学校・園に医師が訪問し、事例カードに基づき、学校・園での子供の様子を観察して専門的な視野から所見を行い、具体的な対応について教職員へ助言をしている。

1. 来所・電話相談統計

令和4年度「こころの相談室」の相談件数は、来所相談18件・電話相談1件、計19件であった。

主訴別の順位で見ると、「不登校（園）」6件、「反抗・乱暴・わがまま」「学習障害（LD）」が各3件、「友人関係」「神経症的」が各2件、「落ち着きがない」「身体症状」「しつけ・育て方」が各1件である。

主訴別・年齢別内訳では、「不登校（園）」は小学生4～6年、中学生が各3件、「反抗・乱暴・わがまま」は小学生1～3年が2件、小学生4～6年が1件、「学習障害（LD）」は中学生が2件、小学生4～6年が1件、「友人関係」は小学生4～6年、中学生が各1件、「神経症的」は幼児4～6歳、中学生が各1件、「落ち着きがない」は小学生1～3年が1件、「身体症状」は小学生4～6年が1件、「しつけ・育て方」は幼児4～6歳が1件であった。＜表1＞

全体の年齢別相談件数で多かったのは、小学生4～6年、中学生が各7件、小学生1～3年が3件、幼児4～6歳が2件であった。＜表1＞

申込み者別では、母親が13件、父親が4件、担任教諭、スクールソーシャルワーカーが各1件であった。また、申込み後のキャンセルが3件あった。

2. 医師の訪問

令和4年度は、幼稚園1園、保育園8園、こども園1園、小学校14校、中学校2校、計26校園を訪問し、延べ訪問回数は41回である。

医師が実際に学校・園を訪問して助言した数は117事例である。「医師の訪問」実施数及び内容については、表の通りである。＜表2＞＜表3＞

各学校・園における訪問依頼の中には、観察、事例を通して、担任や養護教諭、関係教職員への助言だけでなく、全教職員で情報を共有する研修や委員会等で助言する場合もある。

子供の理解を深め、学校・園における様々な課題に対する指導や支援に役立つよう、医師が事例への所見を行い、具体的な手だてについて助言をしている。また、家庭との連携を図ることができるよう保護者への対応についても助言を行うことがある。

<表1> 令和4年度 こころの相談室利用者別・相談内容別統計

主訴・問題		年齢・学年		小学生	中学生	高校生	その他	計			
		幼児	小学生								
		0 ～ 3歳	4 ～ 6歳	1 ～ 3年	4 ～ 6年						
1 性 格 ・ 行 動	1	内気・消極・無気力						0	12		
	2	反抗・乱暴・わがまま			2	1		3			
	3	不登校（園）				3	3	6			
	4	落ち着きがない			1			1			
	5	友人関係				1	1	2			
	6	盗み						0			
	7	緘黙						0			
	8	非行						0			
	9	性について						0			
	10	その他						0			
2 知 能 ・ 学 業	1	精神発達遅滞						0	3		
	2	学業不振						0			
	3	学習障害（LD）				1	2	3			
	4	学習方法・態度						0			
	5	その他						0			
3 精 神 ・ 身 体	1	神経症的		1			1	2	3		
	2	自閉傾向						0			
	3	夜尿・遺尿・遺糞						0			
	4	チック症・爪かみ						0			
	5	自慰						0			
	6	言語障害・遅れ						0			
	7	身体症状				1		1			
	8	その他						0			
4 進 路	1	学校選択						0	0		
	2	転校						0			
	3	進路相談						0			
5	しつけ・育て方		1				1	1			
6 そ の 他	1	学校・教師との問題						0	0		
	2	相談者自身の問題						0			
	3	その他						0			
計			0	2	3	7	7	0	0	19	19

<表2> こころの相談室 「医師の訪問」 実施数

学 校 ・ 園	訪問校・園数	延べ訪問回数	参観・助言事例数
幼 稚 園	1	2	4
保 育 園	8	11	17
こ ど も 園	1	1	4
小 学 校	14	23	77
中 学 校	2	4	15
計	26	41	117

<表3> こころの相談室 「医師の訪問」 実施一覧

月 日	曜	訪問校・園	時 間	参 加 者	内 容
4月12日	火	東上野保育園	15:00~16:00	園長、担任1名	1事例について助言
5月10日	火	松が谷保育園	15:00~16:00	副園長、担任1名	1事例について助言
13日	金	平成小学校	13:30~15:30	校長、副校長、担任1名、養護教諭、他6名	3事例について助言
17日	火	たいとうこども園	13:30~14:40	主任保育教諭、担任2名	4事例について助言
		坂本保育園	14:50~15:50	園長、副園長、担任1名	2事例について助言
31日	火	台桜幼稚園	13:30~15:00	園長、担任1名	2事例について助言
6月7日	火	蔵前小学校	13:30~16:00	副校長、担任3名、養護教諭	4事例について助言
10日	金	田原小学校	13:30~15:10	担任1名、養護教諭、他1名	2事例について助言
14日	火	玉姫保育園	15:00~16:00	園長、担任1名	1事例について助言
21日	火	富士小学校	13:30~15:00	担任2名、養護教諭、他1名	4事例について助言
7月5日	火	大正小学校	13:30~14:40	副校長、担任1名、他2名	1事例について助言
		三筋保育園	15:00~15:40	副園長、担任1名	1事例について助言
8日	金	金竜小学校	14:00~16:00	担任1名、養護教諭、他1名	4事例について助言
12日	火	上野中学校	14:00~16:00	担任1名、養護教諭、他2名	3事例について助言
19日	火	千束小学校	13:30~15:30	担任2名、他1名	5事例について助言
8月9日	火	台東保育園	15:00~16:00	園長、担任3名	2事例について助言

9月9日	金	金竜小学校	14:00~15:30	副校長、養護教諭、他1名	3事例について助言
13日	火	松葉小学校	13:30~16:00	校長、副校長、担任8名、養護教諭、他9名	3事例(全体協議会)
20日	火	金曾木小学校	14:00~15:45	校長、副校長、担任3名	5事例について助言
10月11日	火	蔵前小学校	13:30~16:00	担任5名、養護教諭、他1名	5事例について助言
14日	金	忍岡小学校	14:00~16:00	担任1名、養護教諭、他1名	3事例について助言
18日	火	東浅草小学校	13:45~15:50	校長、担任1名、養護教諭、他1名	4事例について助言
11月1日	火	蔵前小学校	14:30~16:10	担任3名、養護教諭、他1名	5事例について助言
8日	火	平成小学校	13:30~15:30	校長、副校長、担任2名、養護教諭、他6名	3事例について助言
11日	金	富士小学校	13:30~15:30	担任2名、養護教諭、他1名	4事例について助言
15日	火	浅草橋保育園	15:10~16:00	園長	1事例について助言
12月6日	火	根岸小学校	13:30~15:10	担任3名、養護教諭、他1名	4事例について助言
9日	金	石浜小学校	14:30~16:00	担任1名、養護教諭	1事例について助言
13日	火	台桜幼稚園	13:30~15:00	主任教諭、担任1名	2事例について助言
20日	火	上野中学校	14:00~16:00	担任2名、養護教諭、他1名	4事例について助言
1月10日	火	大正小学校	13:30~14:50	副校長、担任2名、養護教諭	2事例について助言
		松が谷保育園	15:00~16:00	副園長、担任1名	2事例について助言
13日	金	玉姫保育園	15:00~16:30	園長、担任4名	3事例について助言
17日	火	蔵前小学校	14:30~16:30	担任3名、養護教諭、他1名	5事例について助言
2月3日	金	桜橋中学校	13:30~15:50	担任1名、学年主任教諭、養護教諭	3事例について助言
7日	火	東浅草小学校	13:30~15:30	担任2名、養護教諭、他1名	3事例について助言
14日	火	松が谷保育園	15:00~16:00	園長、担任1名	2事例について助言
21日	火	黒門小学校	14:00~16:00	校長、担任1名、養護教諭	1事例について助言
3月7日	火	上野中学校	13:30~15:10	担任2名、他1名	4事例について助言
10日	金	平成小学校	13:30~15:30	副校長、担任2名、養護教諭、他6名	3事例について助言
14日	火	千束保育園	15:00~16:00	園長、担任1名	2事例について助言

* 「参加者」の表記について、「他」は特別支援教室専門員、スクールカウンセラーなどである。

* 「事例について助言」は、「授業・保育参観後に助言した事例」と「提示事例による助言」が含まれる。

* 医師の助言は「診断」ではなく、「所見及び助言」である。

未就学児のきこえとことばの相談

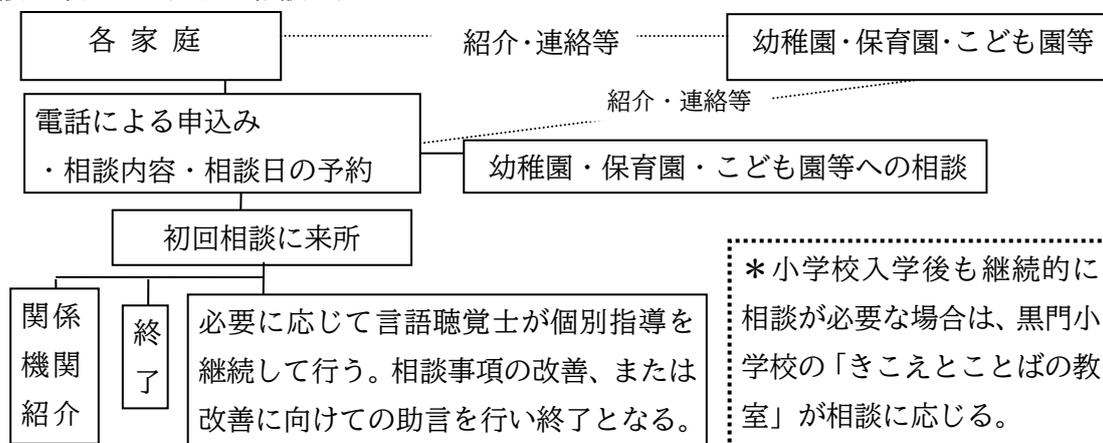
「未就学児のきこえとことばの相談」では、幼児の言葉の発達に関する問題について、保護者の申込みにより、言語聴覚士が個別に相談に応じて支援している。平成21年6月に開設し、相談者の増加に伴い、平成26年度に相談日を増設した。その後も相談者の増加が著しく、平成29年11月から新たに相談日を増設して対応している。

幼児期は、家庭だけでなく園での集団生活を経験する中で言葉の環境も広がり、正しい発音・発語を獲得していく時期である。また、幼児語から徐々に発音が明瞭になるとともに発語が増えていく時期でもあり、園の先生方だけでなく、保護者の子供の言葉と聞こえに関する意識が高まってきている。就学前の早期に改善を期待する相談者も多く、今後さらに、支援の充実を図っていく必要がある。

1. 「未就学児のきこえとことばの相談」事業内容について

- (1) 対 象 ○就学前の幼児・・・主として3歳児～5歳児（年少児・年中児・年長児）
- (2) 目 的 ○就学前の幼児の言葉における全般（発音不明瞭、吃音、言語発達遅滞など）について、言語聴覚士が相談に対応し、幼児の言葉の発達に関する問題について改善を支援する。
- (3) 内 容
 - 言語聴覚士と教育相談員で対応する。
 - 面談日時（要予約） ※都合により、日・時間等の変更もある。
 - *第2週の水・木曜日、第3週の火曜日・・・午前 9:30～11:30
 - *第2週の火曜日、第4週の火・木曜日・・・午後 2:15～4:15
 - 指導の回数は、幼児一人一人の実態と指導の内容に応じて設定する（基本的に1回60分間）

(4) 相談の申込み方法及び相談の流れ



2. 相談結果及びその状況について

<表1> 年齢別申込件数（前年度からの継続・新規申込）

単位：件

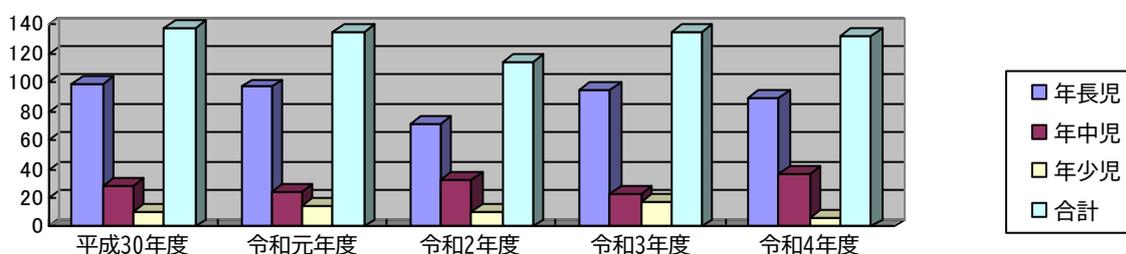
年 度 内 訳 年 齢	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規
年長児	26	17	22	16	21	12	27	15	16	10
年中児	5	18	5	16	11	18	12	5	11	19
年少児	2	7	3	10	0	15	2	13	2	8
小 計	33	42	30	42	32	45	41	33	29	37
合 計	75		72		77		74		66	

<表2> 年齢別来所相談回数

単位：回

年 度 年 齢	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年長児	99	97	71	95	90
年中児	29	24	33	23	37
年少児	10	14	11	17	6
合 計	138	135	115	135	133

<図1> 年齢別来所相談回数



<表3> 主訴と指導内容

単位：件

指 導 内 容	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
構音障害	64	60	55	43	41
吃音	5	8	15	17	15
言語発達遅滞	0	0	1	3	2
構音障害+吃音	6	4	6	10	7
構音障害+言語発達遅滞	0	0	0	1	1
吃音+言語発達遅滞	0	0	0	0	0
構音障害+吃音+言語発達遅滞	0	0	0	0	0
合 計	75	72	77	74	66

<表4> 園児の所属園 単位：件

年度 所属園	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
区立幼稚園	8	8	6
区立保育園	12	13	10
私立幼稚園	22	23	23
私立保育園	24	24	21
こども園	11	6	6
その他	0	0	0
合計	77	74	66

<表5> 申込方法及び紹介経路 単位：件

年度		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
項目				
保護者の気付きによる申込み		43	41	32
紹介による申込み		34	33	34
紹介経路	区立幼稚園	3	3	1
	区立保育園	6	5	1
	私立幼稚園	3	2	3
	私立保育園	3	4	6
	こども園	2	0	0
	保健相談センター	9	14	12
	松が谷福祉会館	5	2	6
	教育相談・電話相談	0	0	1
病院・就学時健診等	3	3	4	
合計		77	74	66

<表6> 終了者数と他機関とのかかわり 単位：件

項目		年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
終了児総数			36	45	27
内 訳	年長児の終了児数		33	42	26
	評価のみで終了・改善して終了		3	2	1
	他機関への紹介		0	0	0
	その他（転居他）		0	1	0
次年度への継続者			41	29	39
合計			77	74	66

【相談状況について】

令和4年度申込み者数は、令和3年度からの継続29件、令和4年度新規申込み者が37件、合計は、66件であった。昨年度に比べて合計数は少ないが、新規申込み者数は多くなっている。<表1>

年齢別では、例年に比べて年中児の数が年長児より4件増えている。<表1>

主訴と指導内容では、例年と同様に構音障害が最も多く62%を占めているが、吃音の相談が23%、構音障害+吃音の相談が10%であり、近年、吃音の相談が増加傾向にある。<表3>

幼児の所属園については、私立幼稚園・保育園の所属が多く、例年同様の傾向である。<表4>

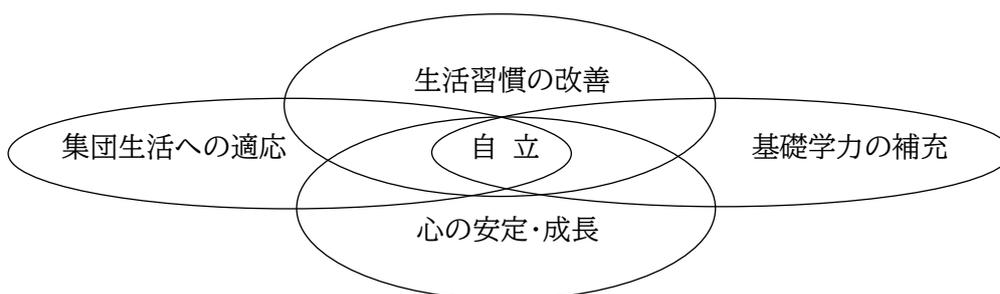
申込み方法としては、保護者の気付きによる申込みが48%、紹介による申込みは52%である。令和3年度同様、保健相談センターの紹介が最も多い。<表5>

年長児の終了児は26件であり、その中には、黒門小学校「きこえとことばの教室」に通級するケースもある。次年度への継続者は、39件であり、令和3年度に比べて10件多い。<表6>

生活指導相談学級（あしたば学級）年間活動報告

1. 本年度の重点

自立した児童・生徒の育成を目指し、令和4年度は以下の4点を重点に活動を進めた。



2. 年間活動状況

4月	1学期始業式 創作活動
5月	創作活動
6月	中学校訪問(スクールカウンセラー) 担任連絡会 校外学習 創作活動
7月	創作活動 保護者面談 1学期末交流集会 1学期終業式 自由通級
8月	自由通級
9月	2学期始業式 創作活動
10月	創作活動
11月	地域散策 担任連絡会 保護者面談
12月	創作活動 2学期末交流集会 2学期終業式
1月	3学期始業式 創作活動
2月	地域散策 担任連絡会 保護者面談
3月	校外学習 創作活動 学年末交流集会 修了式

3. 日常の活動

(1) 活動内容

学 習 計 画	学習や集団活動について、1日の活動計画を立てる。
学 習 活 動	それぞれの計画に沿って、「学習室」や「個室」で自主学習する。
集 団 活 動	年間計画に基づいて実施する。(調理実習・地域散策・校外学習・交流集会・中高生新聞を読んで・裁縫・運動等)
あしたばタイム	興味・関心のある活動に取り組む。

(2) 生活時程

	9:15~9:30	本日の学習計画 記入 / 朝学習
1	9:30~10:15	国 語
	10:15~10:25	休み時間 (ラジオ体操 第1・第2)
2	10:25~11:10	算数/数学
	11:10~11:15	休み時間
3	11:15~12:00	英 語
	12:00~13:00	昼食・昼休み
4	13:00~13:45	理 科・社 会 (選択)
	13:45~13:50	休み時間
5	13:50~14:35	集団活動 (創作活動・話し合い活動など)
	14:35~15:00	あしたばタイム
	15:00~15:15	本日のまとめ

- ・国語、算数/数学、英語 — 児童・生徒が同じ教科に一斉に取り組む時間
- ・理科、社会 — 児童・生徒が2教科から選択して学習に取り組む時間
- ・本日のまとめ — 整頓、日誌に記入し、活動を振り返る時間
- (・必要に応じてカウンセリングを行う)

4. 主な集団活動

○新型コロナウイルス感染症を防止する観点から、計画していた[調理実習]は中止した。

(1) 交流集会

1 学期末交流集会 7月19日	1 学期の振り返りと夏休みに向けてのめあてを発表した後、紙飛行機大会を行い、親睦を深めた。
2 学期末交流集会 12月22日	2 学期の振り返りと冬休みに向けてのめあてを発表した後、ティーボール大会を行い、親睦を深めた。
学年末交流集会 3月23日	令和4年度の振り返りと新年度の目標について発表した後、ティーボール大会を行い、親睦を深めた。

(2) 創作活動

折り紙 4月26日～5月28日	折り紙を使って兜を作ったり、箸袋を使って鶴型の箸置きを作ったりして、完成した作品は棚やテーブルに飾った。
七夕飾り制作 6月27日～7月7日	短冊に、将来の夢や希望を書いた。また千代紙や厚紙などで笹飾りを作った。それぞれが書いた短冊を笹に飾りつけた。
生き生き国語 7月4日～3月22日	漢字の語源を知ったり、「名作を訪ねて」を聴いて読書のきっかけにしたり、国語に関する内容について関心をもつことができた。
裁縫(運針・ボタン付け) 9月12日～10月28日	針の使い方や糸の扱い、玉結び、玉止めなど運針の基礎を学んだ。その後のボタン付けでは、二つ穴と四つ穴のボタンを布に付けた。
裁縫(刺し子) 9月12日～10月28日	デザインされた模様に対して、糸の色や縫い方などを考えながら縫った。はさみや針などの用具の安全な使い方・整理の仕方などを確認した。
クリスマスカード制作 12月19日～21日	飛び出すクリスマスカード作りに挑戦した。基本となる形から折り紙で折った装飾品を組み合わせて自分だけのクリスマスカードを制作した。
書初め 1月13日～20日	今年度の小中学校の書き初め手本を課題とし、下敷きを工夫して練習し、清書をさせて、展示した。
百人一首大会 1月31日	「今日も楽しく百人一首」の課題プリントに取り組み、大会に向けて準備した。当日は和室さくらで大会を行った。
アルバム制作 3月1日～22日	色紙とプリントアウトした写真を渡し、自由にレイアウトさせ、自分の好きな文字やイラストを入れて、アルバムを制作した。

(3) 地域散策・校外学習

国立科学博物館 上野公園 6月24日	国立科学博物館では、地球の多様な生き物がお互いに深く関わり合って生きている姿、地球環境の変動の中で、生命が誕生と絶滅を繰り返しながら進化してきた道のを学ぶことができた。また、上野公園を散策し、上野台の地形や歴史的な建物を見学し理解を深めた。
鷲神社(西の市) 11月4日	年の瀬に向かう町の人々や西の市を見学し、台東区の季節の行事についての理解を深めた。その中で友達同士、触れ合うことができた。
谷中七福神巡り 2月3日	江戸時代から続く谷中七福神の区内にある寺の散策を通して、その歴史や文化に触れ、理解を深めた。
本所防災館 3月3日	地震や水害、消火器の放水訓練などの体験を通して、災害時の的確な対応を学び、防災に対する行動力を高めることができた。

5. 在籍人数

	小学生	中1	中2	中3	計
男	2	0	3	6	11
女	1	6	3	3	13

(令和5年3月31日現在)

6. 進路先

	公立高校	私立高校	未定・その他
人数	4	5	0

(令和5年3月31日現在)

7. 連携

(1) 学校との連携

あしたばだより	ね ら い	あしたば学級の現状等を知らせ、理解・協力を得る。
	方 法	毎月、月初めに発行・送付する。
	内 容	活動方針や活動内容、行事予定等を記載する。
学 校 訪 問 ① (生活指導相談員)	ね ら い	あしたば学級と学校との連携・協力の在り方について共通理解を図る。
	方 法	・年度当初、各中学校及び通級児童の在籍する小学校の管理職を訪問する。 ・児童・生徒に問題行動が生じた場合等、必要に応じて管理職や担任を訪問する。 (※6月の小学校副校長会にて、あしたば学級のしおりを配布し入級手続き等について説明する)
	内 容	通級児童・生徒を含め不登校傾向にある子供全体の出席状況の聞き取り、今後の連携・協力について話し合う。
学 校 訪 問 ② (教育相談員)	ね ら い	不登校傾向にある児童・生徒の情報を共有し、今後の連携・協力が円滑に進むよう共通理解を図る。
	方 法	各中学校及び通級児童の在籍する小学校のスクールカウンセラーを訪問する。
	内 容	児童・生徒の出席状況やカウンセリングによって得られた内容の聞き取り、今後の連携・協力について話し合う。
担 任 連 絡 会 (生活指導相談員)	ね ら い	学校復帰、進級・進学に向け、担任と連携・協力しながら、通級児童・生徒一人一人の課題解決に取り組む。
	方 法	各学期末に、在籍校またはあしたば学級にて、児童・生徒の担任と面談する。 1学期：6月13日(月)～24日(金) 2学期：11月7日(月)～18日(金) 3学期：2月6日(月)～17日(金)
	内 容	通級児童・生徒の様子や今後の指導・支援の在り方等について、情報交換しながら話し合う。
指 導 報 告	ね ら い	児童・生徒の通級状況や活動の様子、カウンセリングによって得られた内容、及び今後の課題等を知らせ、連携・協力を図る。
	方 法	各学校長宛に報告書を毎月送付する。
	内 容	児童・生徒の出席日数や活動内容、生活指導相談員と教育相談員からの所見を記載する。

(2) 保護者との連携

あしたばだより	ね ら い	あしたば学級の現状等を知らせ、理解・協力を得る。
	方 法	毎月、月初めに発行し、児童・生徒を通して配付する。
	内 容	活動方針や活動内容、行事予定等を記載する。
保 護 者 面 談	ね ら い	あしたば学級での活動や家庭での様子を振り返り、成長を確かめ合うとともに、学校復帰に向けての共通理解を図る。
	方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期末にあしたば学級にて、児童・生徒の保護者と生活指導相談員や教育相談員とで面談する。 1学期： 7月 4日(月) ～ 7月 15日(金) 2学期： 11月 21日(月) ～ 12月 2日(金) 3学期： 2月 27日(月) ～ 3月 10日(金) ・面談期間以外でも、必要に応じて保護者と面談する。
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒のあしたば学級での活動と家庭での様子についての情報共有をする。 ・学校復帰や進路などに向けての指導・支援の在り方について話し合う。
指 導 報 告	ね ら い	児童・生徒の通級状況や活動の様子、今後の課題等を知らせ、学校復帰に向けて連携・協力を図る。
	方 法	保護者宛に児童・生徒を通して報告書を毎月配付する。
	内 容	児童・生徒の出席日数や活動内容、生活指導相談員からの所見を記載する。

(3) 教育相談室との連携

ね ら い	情報共有、協力体制の確立を図る。
方 法	必要に応じて情報交換の場を設定する。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・あしたば学級への入級、教育相談室への紹介に関する事前の情報交換・共有をする。 ・あしたば学級と教育相談室の両方に通う児童・生徒やその保護者についての情報交換・共有をする。

ふれあいパートナー派遣事業

本事業は、学校に登校できず家庭にひきこもりがちな児童・生徒を対象としたものである。教員を志望していたり、心理学を学んでいたりする大学生・大学院生を週1回家庭に派遣し、心の安定を図り学校復帰に向けて支援している。

事業内容

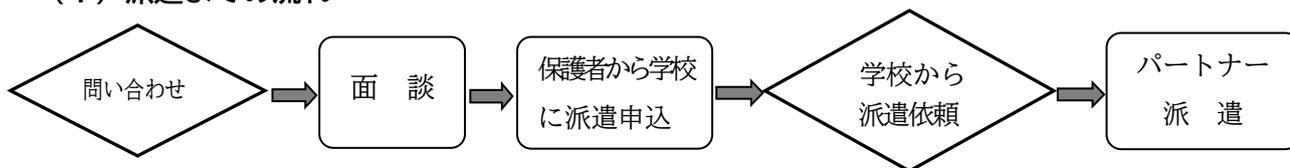
1. 目的

- (1) 対象の児童・生徒と、面談や学習等を通して人間関係を築き、心の安定を図る。
- (2) 児童・生徒との信頼関係を基盤に、あしたば学級に対して関心を深め、入級への期待をもてるようにする。
- (3) 児童・生徒との話し合い、体験的な活動等を通して、自立および学校生活への復帰を支援する。

2. 対象

台東区立小・中学校に在籍、または区内在住の私立小・中学校等に在籍する不登校等でひきこもりがちな状況にある児童・生徒で、保護者等の依頼により学校長から申込みがあった者とする。

(1) 派遣までの流れ



(2) 場所・期間

- ① 保護者在宅の自宅を基本とする。
- ② 気分転換等を目的とした外出の場所は、訪問先の近隣とする。
- ③ 週1回2時間程度とする。(平日9:00~16:00の間)
- ④ 原則6ヶ月までの派遣とする。派遣期間内であっても年度末3月で一度終了となり、残りの期間の派遣を希望する場合は、改めて申請が必要となる。

(3) 活動内容

- ① 話し合い活動(生活習慣、友達関係、学校生活、勉強、自分の夢や希望、進路、日々の過ごし方等)
 - ② 興味・関心を生かした活動(折り紙や工作、絵やイラスト、手芸、オセロ、将棋等)
 - ③ 体を動かす活動(ストレッチ、体操、散歩、近隣の公園で可能な運動等)
 - ④ 学習活動(簡単な読み書きや計算、読書、作文、学習意欲を喚起するもの等)
- ※ 上記の内容を活動時間の中で本人と相談のうえ、継続しながら計画的に行う。
- ※ 月ごとに活動報告を学校に送付する。

[派遣状況について]

令和4年度は、中学校1件の申し込みがあった。しかし、保護者と本人の希望に沿うふれあいパートナーの応募がなく、派遣することができなかった。

今後も引き続き学校や保護者への周知を図り、より良い人材を確保するとともに、パートナー派遣を希望する児童・生徒の心の安定につなげ、学校へ復帰できるように支援していきたい。

台東区立教育支援館・担当者一覧（令和4年度）

館長		工藤 哲士	
統括指導主事		村上 桂一郎	
教育相談員	(教育職)	中山 和佳子	・ 大野 紀子
	(心理職)	吉成 純子	・ 岸尾 香織 ・ 花田 祥子
		梅澤 義行	・ 今津 杏菜 ・ 中村 実沙紀
あしたば学級	(教育職)	古矢 豊	・ 岩田 孝晴 ・ 関 登美雄
		蠣崎 正実	・ 久保田 由季
	(心理職)	田宮 圭	